

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和6年度 第2回佐渡市デジタル活用推進検討懇談会
開催日時	令和6年11月26日(水) 13:00~15:00
場所	佐渡市役所本庁舎2階 大会議室
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 座長あいさつ 3 議事 <ol style="list-style-type: none"> 1) 「佐渡市デジタル活用計画(案)」の認識合わせ 2) 第1回の質問事項への回答 3) 今後のPDCA体制について 4) その他(次回日程) 4 閉会
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	«デジタル化推進検討懇談委員» (8名) «市役所» (4名) ・佐渡市総務部総務課デジタル政策主幹 中川 裕 総務課デジタル政策室長 椎 俊介 総務課デジタル政策室デジタル推進係調査員 桃原 里沙 総務課デジタル政策室デジタル推進係主事 齋藤 凌
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	なし

会議の概要（発言の要旨）

発言者

議題・発言・結果等

座長

1 開会

2 座長あいさつ

本日も皆さまには貴重なお時間をいただき感謝申し上げます。

11月24日にあいぽーと佐渡にて「自然共生のみらい会議」を開催し、環境活動をしている人たちにたくさん集まっていただき、アプリを使ってその場にいる人とオンラインの人と一緒に色々なディスカッションをしたり、ポスターセッションをしたりということをしたが、コロナ禍後にこういうデジタルツールが発展し、特別なスキルやスタッフも不要で、自分たちでそういうものができるようになったということで、この5年ほどでものすごく大きく変化したんだと改めて感じた。

そして、今ここから5年先を考えると、もしかすると今考えられないようなことが起きているのかもしれないというふうに思う。

前回の懇談会後に、個人的に色々反省して、私は話合いの場づくりを専門にしているが、前回、時間調整が思うようにできず中途半端な形で終わってしまったので、本日は違う形でしっかり意見を出し合えるようにしてみた。

本日もよろしく願います。

椎室長

それではそのまま議事の方に入りたいと思うので、進行を座長より願います。

3 議事

1) 「佐渡市デジタル活用計画（案）」の認識合わせ

座長

これからグループに分かれ、今、計画の基本目標に沿ってどのようなことに取り組んでいるのかということや、その内容について意見を出していきたい。

事務局より補足説明を求める。

椎室長

第1回の懇談会において基本目標1～5の認識合わせをしようとしたところ、1と4しかできず、本日は2、3、5について認識合わせをお願いしたい。

今回は基本目標ごとに班を組んでいただき、少人数で実施するような形にさせていただきたい。

今ほど座長がおっしゃったように、基本目標ごとにご意見をいただきたいということで、整理するためのシートを用意させていただいた。

シートには、「疑問」「アイデア」といった4つの項目を書かせていただいているが、第1回の懇談会で皆さま方から色々なご意見をいただいたが、それらご意見を分類すると大体この4項目に集約されているということで、予めこのように準備させていただいた。

今回の懇談会に先だって、皆様には担当したい基本目標を考えていただくようお願いしたが、そのような形で一旦分かれていただいて認識合わせをしたいと思う。

（基本目標ごとに認識合わせを実施）

3 議事

2) 第1回の質問事項への回答

<p>座長</p> <p>椎室長</p>	<p>第1回の懇談会で実施した認識合わせにおいて、個別の取組事項に対して委員の皆さまより担当課への質問をお送りしているが、それに対する回答を事務局より求める。</p> <p>(アジェンダP.5～10に沿って説明)</p>
<p>座長</p>	<p>ご意見等あるか。</p> <p>なければ、次の議事へ移る。</p> <p>3 議事</p> <p>3) 今後のPDCA体制について</p>
<p>座長</p> <p>椎室長</p>	<p>PDCAの体制づくりについて、まず事務局より説明を求める。</p> <p>第1回の懇談会の際に、昨年度の懇談会からの流れとして、この懇談会の中で現課の職員と懇談してみ、そういった中でPDCAのチェックというかアジャストといったところに取り組んでみようという方向でここまで議論してきている。</p> <p>デジタル政策室において、計画のそれぞれの取組項目に対し、担当課に四半期毎の取組状況について回答をお願いしているが、正直なところ、あまり回答になっていないというのが現状である。</p> <p>例えば、担当課から「情報収集に取り組んでいる」という回答があった際に、「具体的にどのような情報収集に取り組んでいるのか」と問うと次の回答が返ってこないという状況である。</p> <p>担当課からの回答については皆さまにも閲覧いただき、そこから課題みたいなものを皆さまに拾っていただき、懇談会としてそれらを意見としてまとめた上で担当課と懇談いただき、その中で色々なアドバイスや市民目線での意見を伝えていただいて、計画のチェックやアジャストに繋がりたいというイメージは持っているが、現在の担当課からの回答内容は、皆さまに「課題を見つけてください」とお願いできるような状態になっていない。</p> <p>そんな状況の中で、座長にも色々相談させていただいているところで、チェックできるような体制やチェックできる仕組みについて、どのように考えていったらよいのかというところで、このような議事を設けさせていただいた。</p> <p>事務局からの説明は以上となる。</p>
<p>座長</p>	<p>計画は立てたが、その計画がどういふふうに進んでいるのかはチェックやアジャストをしていく必要がある。</p> <p>しかし、今の状況では、「どういふ計画がありますか」ということを各課に投げても拳がってこないことが多く、それらをヒアリングで聞き取っても、恐らく漏れもあるのですべてが拳がっている訳ではない。</p> <p>せっかくの「デジタル活用計画」なのにその部分はすごくアナログで、もう少し色々な情報が吸い上げられていくような仕組みをどのように作っていったらよいのかについて、A委員は県において知見があればお聞きしたいこと、そもそも「これは佐渡市役所だけのデジタル活用計画でよいのか」という点についてご意見をお聞きしたい。</p> <p>例えば、「県がこういう動きを佐渡でしている」というような情報がまったくこの計画に載ってこないことになると、県と佐渡市が同じようなことをやってしまったり、「コラボすればもっとよかったのにね」ということになってしまったりするのはと危惧している。</p> <p>この計画が誰の計画を載せていくのがよいのか、行政はもちろんだが、民間でも様々なデジタル活用の動きがあって、皆でそういうものをどういふふう統合していくのかということを考えていった時に、今の計画づくりの方法では難しいのではという印象である。</p>

A委員	<p>なので、そういった観点から、少しざつぱらんに課題だとか、「こんなことできるんじゃないか」みたいなお話をいただくとありがたいと思う。</p> <p>県のお話をすると、県も総合計画は今年度で終わり、次年度からはまた3か年3か年の6年間の総合計画がスタートする。</p> <p>デジタルの部分を抜き出したものに関しては「デジタル改革の実行方針」という形で、今年度版の総合計画に対してのデジタル施策があるので、これを見ていただくと市町村との連携がうまくいくと思うが、県からの発信が弱いので、しっかりと市町村に発信していかなければ駄目だと感じている。</p> <p>毎年改定はするので、その改定情報を適宜市町村にも出していこうと考えている。</p> <p>2つ目の課題については県も一緒に、結局、エクセルを作って担当課にばら撒いて、回答は返ってこないのではアテにしないで行く。</p> <p>それも3か月に1回である。</p> <p>毎月やればよいのかということという問題でもなくて、「誰のためやってるのか」「もしかしたらエクセルのためにやってるのかな」という思いである。</p> <p>この問題については、特にヨーロッパがそうであるが、市民に見せてしまえばよいのかなと思っている。</p> <p>メーターか何かで「ここまで進捗してます」と、webで全部公開すれば担当課の皆さんはそれなりにしっかりと回答しなければいけないし、課題があったら相談する。</p> <p>このように、環境を変えるしかないのかなと思っていて、多分、この作業をエクセルや行っている限りどこも一緒ではないかと思う。</p> <p>もうオープンにしよう。</p> <p>市民に。</p> <p>イギリスもそうだが、税金をどう使っているのかということを全部出している。</p> <p>「あなたの税金はこう使われています」と。</p> <p>そういうことまですると、その国で使われているその税金に対する満足度が出る。</p> <p>そこで変な税金の使い方はもちろんできないし、変な使い方をしていたら文句を言われる。</p> <p>だから、そういうものをどんどんオープンにしていけないといけない。</p> <p>先ほども話したが、「地域医療を作りましょう」とか、「地域」という言葉を必ず付けるが誰も協力してくれないだろうというジレンマもあってあって、やはり、情報としては別に隠すような話ではなく、見せる人には見せていく必要というか、少しカルチャーを変える意味でも十分ではなかと思っている。</p>
座長	<p>私たち研究者の業績は、今までは書類にまとめて出していたが、やはり同じことが起きるので、今はリサーチマップというインターネット上のデータベースサービスに上げている。</p> <p>それを上げていないと怒られる訳ではないが恥をかくとことがあることと、便利なので、そこに上げておけば自分でも業績が分からなくなった時にどこでも参照できるので、そういう風にして、すごくよくなっているという感じがある。</p>
A委員	<p>「しません」とか「しました」なんてとてもアナログ的であって全くデジタルが入っていない。</p> <p>そんな日本語を書くなんて簡単なので、「しっかりとやっていますよ」というのはデジタルで見せていった方がよい。</p>
座長	<p>副座長はいかがか。</p>
副座長	<p>まったくもってA委員のおっしゃるとおりと聞いていた。</p> <p>PDCAに市民を巻き込むということはそうそういう話である。</p> <p>今までは、市民の声の代表みたいな形で私たちがいる訳であるが、それはやはり一部の意見でしかないで、先ほどのような議論の前提みたいな情報開示がもつとなされたら、恐らく、もう少し市民を巻</p>

座長	<p>き込んだ「C」ができるのではないかと知っている。</p> <p>デジタル民主主義の話を懇談会が始まる前にしてしたが、そういう動きは必要である。</p> <p>あまり日本ではできていないので、離島からそういう動きができていくのはすごく面白いかもしれない。</p> <p>他にご意見等あるか。</p>
副座長	<p>地域振興局の職員に来ていただくことはできないか。</p>
座長	<p>そのとおりである。</p>
副座長	<p>確かに地域振興局が色々やっているけど、その県の地域振興局が何をしているのかが実は私もよく分かっていなくて、でも、佐渡市と似たようなことをやっている時がたまにある。</p> <p>それから思っていたのは、「イントラも連動していきましょうね」ということと、先ほどご意見に出していただきましたが、「ボランティアで人材育成事業をやっていますよ」というような情報もこの計画の中に入れていただいて、今、弊社では佐渡市の小学校の22サイトを作成していて、3月までに寄附という形で間に合わせるよう進めているが、そういう情報も組み込んでいくということである。</p> <p>また、先ほど「AIで人材育成」という話をしていたが、佐渡市の場合はデジタル政策室の桃原さんが最初に研修を行ったとのことである。</p> <p>その次は、私であったりF委員であったり、地元のある程度できる人材が、まずはできる範囲内から教えていけばお金もかからないので、そういったできる範囲内のところからやってみるということもうまく組み込んでいって連動するような仕組みづくりができるとよい。</p> <p>デジタルの色々な分野において寄付講座のようなものをできる人たちの情報が収集できる仕組みである。</p> <p>「あんなことやってるよ」という情報は佐渡市の全庁的にどこかが察知していると思う。</p> <p>それを集めて、例えばこの場にお呼びしたり一緒にやっていけるようにしたりした方がもう少し効率的なのかなと思う。</p>
座長	<p>是非。</p> <p>特にパブリックな価値創造というか、そこにコミットしている企業の動きはきちんと把握する必要があるし、例えば、今のどの副座長のお話についても、「小学校のwebサイトを寄付してもらっています」ということを示していくことは大事なことはないか。</p>
副座長	<p>大学と同じような感じで寄付講座みたいに名前をつけてしまえばよいかもしれない。</p>
座長	<p>そのとおりである。</p> <p>そうすると、その企業が「何か地元のためにやっているよね」という情報は少なくとも分かる訳である。</p>
副座長	<p>そういう情報は、例えばwebサイトに関しては学校教育課で知っているはずですし、先ほどのボランティアの施策推進は移住交流推進課が仕切っているので、どこからの部署が情報を持っているはずである。</p> <p>それをかき集めて全部書いてもよいのではないか。</p>
椎室長	<p>今、デジタル政策室において「デジタルかわら版」を作っているが、市役所以外の取り組みも含めた情報を収集して、来年度以降は紙媒体でなくても継続的に発信しようという話をしているところである。</p>
副座長	<p>私からすれば、民間企業もどんどん巻き込んでよいと思っていて、地元企業は「地域のために役に立つことをやりましょう」というところがあるが、その情報を「実はこういうことを民間企業がやっていますよ」と「市報さど」で公開すると、「我こそは」という方が出てくるかもしれない。</p> <p>寄附講座であったりすると、なおさらである。</p>
座長	<p>寄附講座という仕組みについて、名前をどうするのかということもあるが、そういう何か仕組みを作ると</p>

	<p>色々な企業の取組を佐渡市の取組としても位置づけられることになると思う。</p> <p>大学は、大口の寄附を頂いた時に、寄附研究部門や寄附講座というものを立てて、そのスポンサーの方たちに見える形でそれを進めていく。</p> <p>同じことは多分自治体でもできるであろうと、今お話を聞いていて思ったところである。</p> <p>何か名前を付けてしまうとよい。</p>
副座長 座長	<p>例えば、「taneCREATIVEさんとエヌ次元さんがITスキル向上講座を実施しています」ということだけでなく、民間との連携のデジタルプロジェクトを何か名づけて、「その中ではこういうことが展開されています」というものを見る化するとよいかもしれない。</p>
A委員	<p>すぐに完成できないが、首都圏の企業が無料で来て佐渡市がカーボンクレジットで返す形にすると首都圏の企業が喜ぶので、「毎回お金をください」ということにならないと思う。</p> <p>ましてや、18時以降のクラブ活動みたいな感じでワークショップもどんどん開いていくとよいかもしれない。</p> <p>いずれにせよAIを使わざるを得ない。</p> <p>全体とは言わないが、その可能性の方が高い。</p> <p>それを前もって練習しておくかしておかないか。</p> <p>先ほど、投票や選挙でのAI活用という話があったが、AIの評価もまたややこしくなっているが、ハルシネーションについては理解が必要で、何か少しでも疑問があった時に相談できるようにしておいたり、そういうようなものがAIの時代には必要になってくると思う。</p> <p>嘘をつかれるかもしれないので、やはりそれをしっかりと見る力みたいなものを、別のところで少しやっていかなければならない。</p>
座長	<p>AIを使って逆に議事録などから、「何がどの課で行われているか」という情報を整理していくような仕組みはないか。</p>
A委員	<p>楽になればよいと思う。</p> <p>ただ、その楽になったものに対して人がチェックを行うので、チェックの時間は楽にしてはいけない。</p> <p>しっかりと確認する時間を持たなければならぬので、AIとの付き合い方というのは、恐らく、AIはこれだけ優秀で色々なところにある時に、自分自身はどうするんだということを幼少の頃から教えていかないといけないという難しい側面もある。</p> <p>ただ、勉強はした方がよいと思う。</p> <p>もっともっと色々なところの、民間企業だけでなく、子どもたちも含めてAIに関しては色々な切り口で勉強はしていった方がよいだろうと。</p>
中川主幹	<p>1点教えていただきたいところがあって、この計画に地域の取組や民間企業の取組も載せようとした時に、恐らくKPIを載せることになるという気がしていて、そのあたりがどうなのかなど。</p> <p>KPIを設定したり、それを市から「どうですか」と確認したりするのは難しいのではと感じる。</p>
座長	<p>逆にKPIとして立てるとしたら、そういう民間連携プロジェクトを、「今は5だけど10にする」といったKPIが考えられる。</p> <p>1個1個の寄付で企業が役に立ってくれていることに対して、管理するというよりも、モチベーションが上がるようにした方がよいのではないか。</p> <p>同じ計画に載せるのかという問題もあるが、見せ方というかやり方と思う。</p> <p>目的は情報を吸い上げるということだと思う。</p> <p>どういう動きがあるのかということをきちんと把握することが目的だと思う。</p> <p>他にご意見等あるか。</p>

B委員	<p>もしよければ、皆さんから一言ずついただきたい。</p> <p>先ほどもご意見があったところではあるが、担当課からの回答状況というか、先ほど見させていただいて、四半期毎にチェックしている段階かもしれないが、「進んでいないものもある」とか、「これは最終的に何点ぐらいになるのか」とか、それをどう感じるかでどこに公表していくのかであるとか、それに対して懇談会はどう本当に改善することを対話していくのかであるとか、何かそのあたりの進め方というのは、前回と今回の懇談会を見て非常に気になってきたところである。</p> <p>私も社員とやり取りする時に、当初立てた計画どおりにいかなかった時にどうサポートするか。どう見ていくか。日々どうやって動いていくかチェックするということを伴走していくようなことが必要になってくると思うが、そのあたりがとても重要なのではないかと考えて関わることがあったりするが、事実そのとおり打合せしたとしても進んでいないことも結構多かったり、実際はもう止まっているものもある中で、この責任がどこにあるのか、「事業終了で終わりです」という回答で担当課はよいのか、私たちもそれで本当によいのか、それに対して最終的にどう評価していくのかなというのも議論していくとよいのかなと思う。</p>
C委員	<p>私は、多分目的が明確でないと仕事はしづらいなと思っているので、なぜそういった情報が必要なのかということは、各課がしっかり説明する必要があるし、理解していただくということが大事と思う。</p> <p>しっかりと回答をしないということは人事評価にも影響するものなのではないかと。それでよいのかという思いである。</p> <p>市民に公表することはすごくよいと思う。</p>
D委員	<p>ただ、見せ方は、楽しくワクワクする感じに興味を持たれるような見せ方が大事かなと思う。</p> <p>チェックの部分で皆さんおっしゃられているとおり、市民の方に公表することは非常によいと思っていて、計画自体はもう公開されている中で進捗がどうなっているかが分かっていない。</p> <p>例えば、「事業中止」となっているような取組項目もあったと思うが、そういったものを企業の方が見て、「うちならこうやってできるよ」「こうした方がよいんじゃないか」といったパブリックコメントを求めると、非常によくなっていくんじゃないかと思うし、皆さんが興味のある各分野について、「ここだけ見てこうしていきたい」という意見も今後は集まってくる気がするので、公開してやっていくのがよいかなと思う。</p>
座長 椎室長 中川主幹	<p>計画はまだ公開されていないのではないかな。</p> <p>懇談会のアジェンダに搭載したものがインターネットでヒットして出ている。</p> <p>パブリックコメントの計画（案）としても出ている。</p>
E委員	<p>いち市民として本当にここまでの取組も全然分からない状態にいるので、やはり知りたい人ばかりと思うので、その場合、私のような人間でもわかるように、簡単に分かりやすい漢字で公開してほしいと思うのが1点。</p> <p>それから、今日は全体でグループ討議したので変なこともたくさん言ったと思うがとても話しやすかったし効率もよかったので、このやり方はよかったと思う。</p> <p>もう1点、前回の質問事項に対する担当課からの回答で不安に感じたが、「検討します」という回答は、「具体的にいつまでに何をします」という回答に改めていただきたいと思う。</p>
F委員	<p>初めて現地参加させていただいたが、こうして皆さんとディスカッションして色々な意見を言い合えて、色々聞けたのですごくよかったと思う。</p> <p>計画に関してはまだ不透明な部分もあると思うが、これもひっくるめてデジタル人材の方々にChatGPTを使って聞いてみたらよいかなと思った。</p> <p>そこから入ってみると、結構AIも色々意見くれるので、そういったものを使いながらどんどんAIを使い倒していったらよいかなと思った。</p>
座長	<p>それでは、最後の議事に移る。</p>

<p>椎室長</p>	<p>3 議事 4) その他</p> <p>次回の日程について、当初のスケジュール感では12月か1月あたりを想定していたと思うが、1～2月に新年度の予算査定が集中してくるので、開催は2月になるのかなというところで感覚としてお伝えさせていただく。</p>
<p>座長</p>	<p>正式には、皆さまに日程案を提示のうえ決定するので、お願いしたい。 ほかにご意見・ご質問等あるか。 なければ、A委員より閉会のあいさつをお願いします。</p>
<p>A委員</p>	<p>4 閉会</p> <p>本日みたいな会議はとてもよい。 もう1回入れていただきたい。 先々週フィンランドに出張してきたが、今、ヨーロッパのデータ連携がすごく進んでいて、そのイベントに行ってきた。 フィンランドによく行くが、結構、新潟県というか雪国に似ている。 今はもう雪が降り始めてずっと真っ暗で、太陽が上がるのも9時くらいであるが、その割に建物だとか、原色、黄色とか赤とか黄色とかで結構明るくて、図書館は真っ白でものすごく明るくて、そういうところに行くと子どもたちがキャッキャキャッキャとしている。 フィンランドは国を挙げて子供を大切にしようとしているが、出生率を調べたら日本より少ないらしく、子育て支援を厚くしても出生率は上がらないという結論を出して、次の対策をするようである。 そこは見ものなのでまた何か分かったらお伝えするが、子どもたちをどう大切にしていけるのかというのは大人の役目とは昔から言っているが、そういうことなんだろうと。 というのも、私もそうであるが、高齢者の方はどんどん見習っていくので、そのあたりはあまり人とお金をかけずに色々やるのは一つ解決策ではないかということで、一生懸命頑張っていけないかなと。 私もそうだが、首都圏の企業の人たちもどんどんどんどんサイバー空間というかSNSとかネットワークで繋がりはじめると、「佐渡に美味しい寒ブリでも食べに行くか」みたいな感じにすぐなるので、そういう交流も含めてより多く、「佐渡ってこんなに楽しいんだぞ」というところ佐渡の皆さんがどんどん出していければというような感じになるよと思う。 本日は、色々議論いただき感謝申し上げます。</p>